

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目	数学(文系)
----	--------

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

今年度も、例年通り 80 分 3 問の出題であったが、全体的に解きやすい問題が少なく、難化した。3. は、問題文の意味が理解しにくかったと思われる。

〈特記事項・トピックス〉

数学Ⅱの「積分法」が 4 年連続で出題されなかった。

理系とは異なり、証明問題は出題されなかった。

数列、ベクトルは出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

例年、「大問を完答する」ことよりも、「小問を 1 つずつ解き切る」ことが重要であり、今年はその特徴が色濃く表れている。神戸大文系数学における頻出分野にこだわらず、高校数学全分野にわたってまんべんなく学習すること、自分の手を動かして計算したり証明したりする学習習慣をつけることが重要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1.	記述	Ⅱ	微分法, 解と係数の関係, 図形と方程式	3 次関数の表すグラフと直線の共有点における接線の交点の軌跡を求める問題。(3) で交点 Q の x 座標, y 座標を t のみで表すところが難しかったと思われる。	やや難
2.	記述	Ⅱ, A	多項式の割り算, 確率	さいころの出た目によって多項式の係数を決定し, 割り算の余りについての確率の問題。(2) までは理系と共通問題であるが, (3) 以降も a, b, c の偶奇に注目するなど, 整数問題の要素も含むので, 易しくはない。	やや難
3.	記述	I	集合, 平面図形	正六角形の頂点を結んで得られる三角形, 四角形の位置関係を考察する問題。問題文が長くて, 見慣れない記号を用いて表現していることから, 手が出にくかったと思われる。	難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。